

クニョンサツハ アイチェットナツサウナウヘ ルニツヒ
 ၇ နံပျီ ယဇ်နီၤ နံၤ ဂေၤလေၤးၤ

岐阜市立東長良中学校 3年

服部 吾朗

あなたは、豊かさとは何かと問われた時、何を思い浮かべるだろうか。

最新のスマートフォン。たくさんのお金。欲しい物が手に入る社会の仕組み。

多くのものに溢れ、ボタンを押すだけで、世界中のものや情報が手に入るこの時代で、僕たちは、「豊かな時代」を生きているように思う。

実際に、僕も、ものに溢れていることや、生活が便利になることこそが、豊かさだと思っていた。しかし、カンボジアでの研修により、自分の考えの安直さを痛感させられた。

トンレサップ湖という巨大な湖を訪れた研修生一同。水上生活者という湖の上に家を建てて暮らす人々と初めて触れ合った。日本のような綺麗な水道や最新の家電はない。ものに溢れた便利な暮らしとは言えない。でも、きれいとは言えない服を着た母親が眩しいほどの笑顔で僕にこう言ったのだ。

「၇ နံပျီ ယဇ်နီၤ နံၤ ဂေၤလေၤးၤ」 「私は、今、とても幸せです。」

心の中にかく結ばれた違和感が突如として現れた。

母親は、なぜ、こんなにも真っ直ぐに「幸せだ」と言い切れるのか。激しい違和感とともに、「本当の豊かさとは何か。」という問いが頭の中を駆け巡る。

自力で結び目をほどき始める。

本当の豊かさとは、「幸せを感じる心」なのではないか。決して、ものやお金の量ではないのだ。キツく結ばれた違和感という結び目が少しずつほぐれていくのを感じる。しかし、まだ分からない。

「幸せ」と「豊かさ」は何が違うのか。

「幸せ」とは、友達と笑い合っている瞬間や美味しいご飯を食べた時など、その場その場で心に生まれる数えきれないほどの「種」。「豊かさ」とは、その「種」を受け止める「心の器」。この違いに気づき、視界がひらけてくる。その刹那、トンレサップ湖の母親の笑顔が蘇る。

トンレサップ湖の人々は、「幸せの種」を受け止める「心の器」をもっていた。

家族と一緒にいられること。ご飯を食べられること。

日常の中にある幸せの種を一つも取りこぼさないのだ。だからこそ、どんな環境であつても「幸せだ」とあんなにも清々しい笑顔で言い切れたのだ。結び目の解放。と同時に、眼前に出現した自分の顔。あそこまでの笑顔で、「幸せだ」と言い切れるか。

ボタンひとつで何でも手に入る便利さに安住し、「もっと新しいもの」「もっと刺激的なもの」と矢印を外にはばかり向けていないか。

どれだけ多くのものを持っても、心が忙しさを不満でトゲトゲしていれば、足元にある小さな幸せに気づくことはない。せつかくの「幸せの種」が目の前にあつても、それを受け止める心の器がなければ、気づかないまま通り過ぎてしまう。僕たちは、ものの豊かさを手に入れたはずの社会で、「幸せを感じる心」を、いつ間にか見失ってしまったのかもしれない。

これからの時代を生きる僕たちに必要なのは、外にはばかり矢印を向けるのではなく、自分の内側にある「心の器」を広げることではないだろうか。

カンボジアの体験を経て、僕の日常の景色は大きく変化した。

毎日家族と言葉を交わせること。学校で友達と他愛もない話で笑い合えること。美味しいご飯を食べられること。以前なら見過ごしていたような「当たり前」の日常に、たくさんの幸せの種が転がっていることに気づけるようになった。

今の僕たちは、恵まれた環境に慣れすぎてしまった。幸せの種は、遠くにある特別なものではない。今、あなたの目の前にある小さくても確かに存在する幸せの種に気づき、それを大切に受け止めれば、あなたの毎日にもっと豊かになるはずだ。

日常にある「当たり前」にただ生かされるのではなく、自ら進んで幸せを受け止める豊かな心を持って生きていきたい。身近な幸せを一つ一つ丁寧に「心の器」で受け止めながら、これからも豊かな心を育てていく。

၇ နံပျီ ယဇ်နီၤ နံၤ ဂေၤလေၤးၤ

僕は、今日も、あの笑顔を追いつける。